

## 【令和4年度】第1回学校運営協議会実施報告

令和4年度第1回学校運営協議会を以下のように開催しましたので報告いたします。

- 日時：令和4年6月20日（月）
- 場所：横浜南陵高等学校会議室
- 参加：学校運営協議会委員（6名）、事務局他（4名）

### ○内容

- 1 校長挨拶
- 2 委員の紹介と部会の説明
- 3 授業見学
- 4 報告及び協議
  - ・令和3年度学校評価報告書について
  - ・令和4年度学校評価と本校の取組について
- 5 各委員から意見・感想等
- 6 校長より
- 7 諸連絡（事務局）

### 議事録

#### 神奈川県立横浜南陵高等学校における学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を次のとおり開催した。

審議会等名称	神奈川県立横浜南陵高等学校 令和3年度 第1回学校運営協議会
開催日時	令和4年6月20日（月） 13:30～15:00
開催場所	神奈川県立横浜南陵高等学校 会議室
出席者	[委員] 小川 昭（横浜市港南区日野第三町内会長） 村山 小百合（横浜市立日野中央高等特別支援学校長） 狩谷 浩史（横浜市立日野小学校長） 松本 麻理子（横浜市立日野南中学校長） 麻生 美香（横浜南陵高等学校PTA会長） 戸田 崇（横浜南陵高等学校長） [事務局] 須田 孝之（副校長）、牛島 操（教頭）、加藤 博信（総括教諭） 小宮山 早（教諭）
開会	○学校長挨拶 <ul style="list-style-type: none"><li>・委員委嘱依頼</li><li>・現在はコロナ禍のため時差通学だが、その他は通常通り学校を運営している。</li><li>・熱中症予防しながら新型コロナウイルス感染を防止している。</li><li>・合唱コンクールの開催は生徒たちの頑張りが見えた。</li></ul> ○委員紹介と部会の構成 小川様・村山様・狩谷様・松本様・麻生様  《報告及び協議》 ○令和4年度ランドデザインについて

・グランドデザインに関しては昨年度とほぼ変化はないが、スクールミッションに「福祉マインド」を培うことが謳われていることから、以前は確かな教養の中に位置付けていた「福祉マインド」を今年度より新たにグランドデザインの柱とした。

○令和3年度学校評価報告書（実施結果）について

- ・学校経営（現状と課題解決に向けて）をご覧頂きたい。
- ・全学年での「福祉マインド」の取組を行ってきた。
- ・来年度からの1人1台端末の導入やその利活用について検討し、生徒・保護者にも周知徹底進めている。
- ・コロナ禍でICT機器の整備とその利用が加速化した。
- ・生徒の様子を見ていると、新型コロナウイルスの影響もあるのか、教育相談体制を更に強化する必要がある。
- ・新型コロナウイルスの影響で地域連携に関する各種行事が中止になった。今後の連携方法の検討が必要である。
- ・県内で職員の不祥事が絶えない。未然防止の観点から、職員室前にオープンな学習スペースを増設した。

○令和4年度学校評価報告書（目標設定）

- ・ICTの利活用の推進を中心に教職員の校内研修を強化していく。
- ・日野中央高等特別支援学校との相互連携や交流を2，3年生でどのように行っていくのか検討が必要である。
- ・生徒主体の学校行事の実現を目指す。
- ・3年間を見通した進路計画の一環で、classiやGoogleCrassroomを活用した進路活動に取り組む。
- ・感染症防止対策を行いながら地域連携の復活を目指し、地域と協議しながら更なる活動につなげていきたい。

《質疑応答》

○令和3年度（結果報告）について

（意見）新型コロナウイルスの影響で対面での活動が難しい時期があった。対面で接することとわかることがある。地域交流は生徒の人間性を高め、成長に繋がるはず。今年度に期待している。

（意見）地域での活動は市町村のルールに従いながら様々な配慮が必要で、学校の活動内容についても注視している。地域での活動と学校の活動に齟齬が生じないように、調整しながら少しずつ活動を再開する必要があるが依然厳しい状況ではある。

（質問）今後コロナウイルス対策を行ったうえで、どのように学校行事を再開させていくのか。

（校長）20期生は、修学旅行に行けなかったが、代替で今年度始めに富士急ハイランドに日帰りで行った。今年度は感染症対策を行いながらできる限り学校行事を行いたいと考えている。

（質問）ICTを活用することで、どのように授業の仕方が変わり、授業力の向上や魅力を高めることができるのか。

（校長）ICTに関して、これまでに様々な試行錯誤を行ってきた。各グループからメンバーを集め研究をしている。各グループにICT業務を位置付け取組んでいる。

（意見）昨年より本校パンフレットに南陵高校との連携内容を掲載した。生徒の意識がどのように変化するか期待している。64名の生徒がスライド発表をした。南陵高校との連携が

日常の意識になってきた。南陵高校の生徒と関わるのが共生社会になるのではないかと思う。

(質問) 生徒の最終的な目標としてはどのようなものを考えているのか。

(校長) 生徒自身の入学時の目標を達成させたいという思いがある。

(質問) 高校1年生で自分の進路について具体的に考えている人は少ないのではないか。社会や世の中を見る機会を与えてあげる必要がある。

(校長) おっしゃる通りである。できる限りそのような機会を設けるように努める。福祉コースの名残から看護医療関係に進学したい生徒は毎年何名かいて、喜んで選択授業でその分野の科目に取り組んでいる。

(意見) 中学校でもICTを活用している。英語で活用したい時などはホワイトボードに画面を投影して、その上に必要事項を記入したら良いと思う。なるべく子供の意見を吸い上げる形でのICT活用が良いのではないか。

(質問) グループ学習は解禁か？

(校長) マスクと換気があれば可能。

(意見) 中学校はデジタル教科書を使用している。

(質問) ICTの教材作りは高校の業務負担にならないか。

(校長) 現状各担当者が作成している状況で業務は増えている。それを有効に活用するためにも高校の財産として蓄積させなければならない。

(副校長) 次回以降、部会で検討事項を検討したい。

○校長よりまとめ

○事務局より次回の開催についての事務連絡

閉会